

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクジン ダイワブンカガクエン 学校法人 大東文化学園								
フリガナ大学の名称	ダイワブンカガク 大東文化大学 (Daito Bunka University)								
大学本部の位置	東京都板橋区高島平1丁目9番1号								
大学の目的	本大学は、建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	看護専門職として自ら主体的に学問を探究し、好奇心に満ちた豊かな人格形成と多文化社会に生きるさまざまな人々への理解を涵養し、住み慣れた地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に活躍するための看護実践能力を發揮できる人材の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ・健康科学部 [Faculty of Sports and Health Science] 看護学科 [Department of Nursing] 計	年	人	年次人	人	学士 (看護学)	年 月 第 年次 平成30年4月 第1年次	埼玉県東松山市 岩殿560	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	文学部歴史文化学科 (100) (平成29年4月届出) 社会学部社会学科 (200) (平成29年4月届出) 環境創造学部環境創造学科(廃止) (△165) ※平成30年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	スポーツ・健康科学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	スポーツ・健康科学部 看護学科	人	人	人	人	人	人	人
			(6)	(5)	(4)	(6)	(21)	(3)	(66)
		文学部 歴史文化学科	4	5	0	0	9	0	23
			(3)	(5)	(0)	(0)	(8)	(0)	(7)
	既設	社会学部 社会学科	9	5	6	0	20	0	28
			(8)	(5)	(6)	(0)	(19)	(0)	(10)
計		20	16	13	7	56	14	—	
		(17)	(15)	(10)	(6)	(48)	(3)	(—)	
既設	文学部 日本文学科	10	3	1	0	14	0	34	
		(10)	(3)	(1)	(0)	(14)	(0)	(34)	
	中国文学科	4	3	2	1	10	0	18	
		(4)	(3)	(2)	(1)	(10)	(0)	(18)	
計	英米文学科	7	2	3	0	12	0	57	
		(7)	(2)	(3)	(0)	(12)	(0)	(57)	
計	教育学科	8	10	6	0	24	0	45	
		(8)	(10)	(6)	(0)	(24)	(0)	(45)	

平成29年4月届出
(歴史文化学科、社会学科)

教 員 組 織 の 概 要	既 設	書道学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	41 (41)	
		経済学部	社会経済学科	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	35 (35)
			現代経済学科	11 (11)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	21 (21)
		外国語学部	中国語学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	55 (55)
			英語学科	11 (11)	8 (8)	8 (8)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	94 (94)
			日本語学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	43 (43)
		法学部	法律学科	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	46 (46)
			政治学科	11 (11)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	32 (32)
		国際関係学部	国際関係学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	18 (18)
			国際文化学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	20 (20)
		経営学部	経営学科	20 (20)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	35 (35)
		スポーツ・健康科学部	スポーツ科学科	11 (11)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	26 (26)
			健康科学科	10 (10)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	19 (19)	4 (4)	7 (7)
			東洋研究所	2 (2)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
			書道研究所	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
			教職課程センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	36 (36)
			国際交流センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)
			計	169 (169)	77 (77)	46 (45)	7 (7)	299 (298)	4 (4)	— (—)
			合計	189 (186)	93 (92)	59 (55)	14 (13)	355 (346)	18 (7)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		180 (180)		56 (56)		236 (236)			
	技 術 職 員		2 (2)		18 (18)		20 (20)			
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		11 (11)		21 (21)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		2 (2)		2 (2)			
計		192 (192)		87 (87)		279 (279)				
						大学全体				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 内 借入面積 2,635.10 m ² (内訳) ①105.10m ² (平成17年4月1日～ 平成37年3月31日) ②2,530.00m ² (平成16年4月1日～ 平成37年3月31日)			
	校 舎 敷 地	66,525.45 m ²	— m ²	— m ²	66,525.45 m ²				
	運 動 場 用 地	47,531.69 m ²	— m ²	— m ²	47,531.69 m ²				
	小 計	114,057.14 m ²	— m ²	— m ²	114,057.14 m ²				
	そ の 他	162,220.71 m ²	— m ²	— m ²	162,220.71 m ²				
合 計	276,277.85 m ²	— m ²	— m ²	276,277.85 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		115,154.57 m ² (111,810.57 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	115,154.57 m ² (111,810.57 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	199 室	44 室	45 室	28 室 (補助職員13人)	10 室 (補助職員11人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		スポーツ・健康科学部 看護学科		25 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 を含む 図書 522,683冊 〔92,393冊〕 学術雑誌 50,972種 〔47,527種〕	
	スポーツ・健康科学部 看護学科	527,080 [92,905] (525,327 [92,690])	51,041 [47,555] (51,000 [47,536])	47,020 [46,999] (47,007 [46,995])	18,856 (18,710)	2,307 (2,307)	0 (0)		
	計	527,080 [92,905] (525,327 [92,690])	51,041 [47,555] (51,000 [47,536])	47,020 [46,999] (47,007 [46,995])	18,856 (18,710)	2,307 (2,307)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		取 納 可 能 冊 数		大学全体	
		14,659.66 m ²		1,759		1,753,964			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		11,443.20 m ²		野球場、ラグビー場、テニスコート、弓道場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	※共同研究費については大学全体
	経費の見積り		400千円	400千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	— 千円	— 千円	
	図 書 購 入 費	19,672千円	12,947千円	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	設 備 購 入 費	165,394千円	54,053千円	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	区分	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	スポーツ・健康科学部 看護学科	1,950千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大東文化大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学研究科								東京都板橋区 高島平1-9-1
	日本文学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (日本文学)	0.50	S39年度	
	中国学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国学)	0.40	S39年度	
	英文学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (英文学)	0.40	S53年度	
	書道学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (書道学)	0.92	H15年度	
教育学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (教育学)	0.20	H20年度		
日本文学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (日本文学)	0.20	S47年度		
中国学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国学)	0.00	S42年度		

既 設 大 学 等 の 状 況	書道学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (書道学)	0.55	H17年度		
	経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (経済学) (公共政策学)	0.15	S47年度		
	経済学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経済学)	0.00	S53年度		
	法学研究科 法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (法学)	0.10	S52年度		
	政治学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (政治学) (公共政策学)	0.14	H6年度		
	法律学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (法学)	0.00	H3年度		
	政治学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (政治学)	0.08	H8年度		
	外国語学研究科 中国言語文化学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国言語 文化学)	0.80	H11年度		
	英語学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (英語学)	0.90	H11年度		
	日本語学文化学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (日本語学 文化学)	0.25	H11年度		
	中国言語文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国言語 文化学)	0.44	H23年度		
	英語学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (英語学)	0.88	H17年度		
	日本語学文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (日本語学 文化学)	0.44	H19年度		
	アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士 (アジア 地域研究)	0.41	H11年度		
	アジア地域研究専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (アジア 地域研究)	0.00	H13年度		埼玉県東松山市 岩殿560
	経営学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (経営学)	0.13	H15年度		
	経営学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経営学)	0.06	H15年度		東京都板橋区 高島平1-9-1
	スポーツ・健康科学研究科 スポーツ・健康科学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (スポーツ科学) (健康科学)	0.65	H21年度		埼玉県東松山市 岩殿560
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	H16年度		東京都新宿区 信濃町34番地 JR信濃町駅	平成27年度より 学生募集停止 (法務研究科)

既 設 大 学 等 の 状 況	文学部		(530)		(2,180)		(1.11)			
	日本文学科	4	150	—	600	学士 (日本文学)	1.19	S37年度		
	中国文学科	4	70	—	370	学士 (中国文学)	0.98	S37年度		平成29年度 入学定員減(△30人) (中国文学科)
	英米文学科	4	130	—	520	学士 (英米文学)	1.15	S42年度		
	教育学科	4	120	—	450	学士 (教育学)	1.07	S47年度		平成29年度 入学定員増(10人) (教育学科)
	書道学科	4	60	—	240	学士 (書道学)	1.14	H12年度		
	経済学部		(370)		(1,450)		(1.11)			
	社会経済学科	4	205	—	805	学士 (経済学)	1.11	H13年度	(1,2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3,4年次) 東京都板橋区 高島平1-9-1	平成29年度 入学定員増(5人) (社会経済学科)
	現代経済学科	4	165	—	645	学士 (経済学)	1.13	H13年度		平成29年度 入学定員増(5人) (現代経済学科)
	外国語学部		(360)		(1,530)		(1.09)			
	中国語学科	4	70	—	370	学士 (中国語学)	0.94	S47年度		平成29年度 入学定員減(△30人) (中国語学科)
	英語学科	4	230	—	920	学士 (英語学)	1.13	S47年度		
	日本語学科	4	60	—	240	学士 (日本語学)	1.18	H5年度		
	法学部		(375)		(1,500)		(1.12)			
	法律学科	4	225	—	900	学士 (法学)	1.12	S48年度		
	政治学科	4	150	—	600	学士 (政治学)	1.13	H2年度		
	国際関係学部		(200)		(800)		(1.14)			
	国際関係学科	4	100	—	400	学士 (国際関係)	1.19	S61年度	(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	
	国際文化学科	4	100	—	400	学士 (国際文化)	1.09	S61年度		
	経営学部		(365)		(1,415)		(1.12)			
経営学科	4	365	—	1,415	学士 (経営学)	1.14	H12年度		平成29年度 入学定員増(15人) (経営学科)	
企業システム学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	H12年度	(1,2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3,4年次) 東京都板橋区 高島平1-9-1	平成28年度より 学生募集停止 (企業システム学科)	
環境創造学部		(165)		(660)		(1.12)				
環境創造学科	4	165	—	660	学士 (環境創造学)	1.12	H13年度		平成30年度より 学生募集停止(予定) (環境創造学科)	
スポーツ・健康科学部		(225)		(825)		(1.12)				
スポーツ科学科	4	125	—	425	学士 (スポーツ科学)	1.19	H17年度	(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	平成29年度 入学定員増(25人) (スポーツ科学科)	
健康科学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	1.06	H17年度			
附属施設の概要		該当なし								

学校法人 大東文化学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大東文化大学									
文学部					文学部				
日本文学科	150	-	600		日本文学科	150	-	600	
中国文学科	70	-	280		中国文学科	70	-	280	
英米文学科	130	-	520		英米文学科	130	-	520	
教育学科	120	-	480		教育学科	120	-	480	
書道学科	60	-	240		書道学科	60	-	240	
					<u>歴史文化学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(届出)
経済学部					経済学部				
社会経済学科	205	-	820		社会経済学科	205	-	820	
現代経済学科	165	-	660		現代経済学科	165	-	660	
外国語学部					外国語学部				
中国語学科	70	-	280		中国語学科	70	-	280	
英語学科	230	-	920		英語学科	230	-	920	
日本語学科	60	-	240		日本語学科	60	-	240	
法学部					法学部				
法律学科	225	-	900		法律学科	225	-	900	
政治学科	150	-	600		政治学科	150	-	600	
国際関係学部					国際関係学部				
国際関係学科	100	-	400		国際関係学科	100	-	400	
国際文化学科	100	-	400		国際文化学科	100	-	400	
経営学部					経営学部				
経営学科	365	-	1,460		経営学科	365	-	1,460	
環境創造学部									
環境創造学科	165	-	660			<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成30年4月学生募集停止
スポーツ・健康科学部					スポーツ・健康科学部				
スポーツ科学科	125	-	500		スポーツ科学科	125	-	500	
健康科学科	100	-	400		健康科学科	100	-	400	
					<u>看護学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(認可申請)
					<u>社会学部</u>				
					<u>社会学科</u>	<u>200</u>	-	<u>800</u>	学部の設置(届出)
計	2,590	-	10,360		計	<u>2,825</u>	-	<u>11,300</u>	
大東文化大学大学院									
文学研究科					文学研究科				
日本文学専攻(M)	5	-	10		日本文学専攻(M)	5	-	10	
日本文学専攻(D)	5	-	15		日本文学専攻(D)	5	-	15	
中国学専攻(M)	5	-	10		中国学専攻(M)	5	-	10	
中国学専攻(D)	3	-	9		中国学専攻(D)	3	-	9	
英文学専攻(M)	5	-	10		英文学専攻(M)	5	-	10	
書道学専攻(M)	7	-	14		書道学専攻(M)	7	-	14	
書道学専攻(D)	3	-	9		書道学専攻(D)	3	-	9	
教育学専攻(M)	10	-	20		教育学専攻(M)	10	-	20	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20		経済学専攻(M)	10	-	20	
経済学専攻(D)	5	-	15		経済学専攻(D)	5	-	15	
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20		法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	5	-	15		法律学専攻(D)	5	-	15	
政治学専攻(M)	7	-	14		政治学専攻(M)	7	-	14	
政治学専攻(D)	4	-	12		政治学専攻(D)	4	-	12	
外国語学研究科					外国語学研究科				
中国言語文化学専攻(M)	5	-	10		中国言語文化学専攻(M)	5	-	10	
中国言語文化学専攻(D)	3	-	9		中国言語文化学専攻(D)	3	-	9	
英語学専攻(M)	5	-	10		英語学専攻(M)	5	-	10	
英語学専攻(D)	3	-	9		英語学専攻(D)	3	-	9	
日本語文化学専攻(M)	10	-	20		日本語文化学専攻(M)	10	-	20	
日本語文化学専攻(D)	3	-	9		日本語文化学専攻(D)	3	-	9	
アジア地域研究科					アジア地域研究科				
アジア地域研究専攻(M)	12	-	24		アジア地域研究専攻(M)	12	-	24	
アジア地域研究専攻(D)	4	-	12		アジア地域研究専攻(D)	4	-	12	
経営学研究科					経営学研究科				
経営学専攻(M)	15	-	30		経営学専攻(M)	15	-	30	
経営学専攻(D)	5	-	15		経営学専攻(D)	5	-	15	
スポーツ・健康科学研究科					スポーツ・健康科学研究科				
スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20		スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20	
計	159	-	361		計	159	-	361	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(スポーツ・健康科学部看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
総合基礎科目	大学入門	基礎ゼミナール	1通					○		7	6	7	7	14	共同 オムニバス・ 一部共同 ※ 講義 ※講義	
		共通スキル	1前	1				○		3	5	7	7	14		
		情報処理	1前	1				○		1						
		人間関係論	1前		1		○									
		小計 (4) 科目	—	4	1	0		—		7	6	7	7	14	1	
	基本 スキル 科目	第一 外国 語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○				1			兼2
			英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○				1			兼2
			英語コミュニケーションⅢ	2前	1				○				1			兼2
			英語コミュニケーションⅣ	2後	1				○				1			兼2
			医療英語	2前		1			○				1			
			英語ゼミナール	4前		1			○				1			
		小計 (6) 科目	—	4	2	0		—				1			2	
	第二 外国 語	中国語A	1・2前		1				○						兼1	
		中国語B	1・2後		1				○						兼1	
		ロシア語A	1・2前		1				○						兼1	
		ロシア語B	1・2後		1				○						兼1	
		フランス語A	1・2前		1				○						兼1	
		フランス語B	1・2後		1				○						兼1	
		ドイツ語A	1・2前		1				○						兼1	
		ドイツ語B	1・2後		1				○						兼1	
		小計 (8) 科目	—	0	8	0		—							4	
	全学 共通 科目	基本 科目 A系「人間と文化」(人文系)	哲学A	1・2・3・4前・後		2			○							兼2
			哲学B	1・2・3・4前・後		2			○							兼2
			文学A	1・2・3・4前・後		2			○							兼2
文学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
論理学A			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
論理学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
倫理学A			1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
倫理学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
宗教学A			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
宗教学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
歴史学A			1・2・3・4前・後		2			○							兼3	
歴史学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼3	
考古学A			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
考古学B			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
文化史A			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
文化史B			1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
芸術学A	1・2・3・4前・後		2			○							兼4			
芸術学B	1・2・3・4前・後		2			○							兼4			
地理学A	1・2・3・4前・後		2			○							兼2			
地理学B	1・2・3・4前・後		2			○							兼2			
言語学A	1・2・3・4前・後		2			○							兼2			
言語学B	1・2・3・4前・後		2			○							兼2			

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ・健康科学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目	B系「社会と生活」(社会系)	法学A		2		○									兼2
		法学B		2		○									兼2
		社会学A		2		○									兼2
		社会学B		2		○									兼2
		政治学A		2		○									兼2
		政治学B		2		○									兼2
		経済学A		2		○									兼1
		経済学B		2		○									兼1
		心理学A		2		○									兼2
		心理学B		2		○									兼2
		教育学A		2		○									兼2
		教育学B		2		○									兼2
		民俗学A		2		○									兼1
		民俗学B		2		○									兼1
	文化人類学A		2		○									兼1	
	文化人類学B		2		○									兼1	
	C系「自然と環境」(自然系)	数学A		2		○									兼1
		数学B		2		○									兼1
		地学A		2		○									兼1
		地学B		2		○									兼1
		生物学A		2		○									兼2
		生物学B		2		○									兼2
		生態学A		2		○									兼1
		生態学B		2		○									兼1
		現代科学A		2		○									兼3
		現代科学B		2		○									兼3
		情報科学A		2		○									兼2
		情報科学B		2		○									兼2
		自然科学A		2		○									兼1
	自然科学B		2		○									兼1	
	D系「健康とスポーツ」(保健体育系)	総合体育A	1前	1					○						兼5
		総合体育B	1後	1					○						兼5
		健康スポーツ科学A	1・2・3・4前・後		2		○								兼4
		健康スポーツ科学B	1・2・3・4前・後		2		○								兼4
		体育実技A	2・3・4前		1				○						兼3
		体育実技B	2・3・4後		1				○						兼3
		野外実習A	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		野外実習B	1・2・3・4前・後		1				○						兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ・健康科学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
総合基礎科目	全学共通科目 課題(テーマ)科目・自由科目(E系)	第1群 地域・国家・民族の考察A	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		地域・国家・民族の考察B	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		第2群 女性・子ども・老人への視点A	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		女性・子ども・老人への視点B	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		第3群 人権・民主主義・平和を考えるA	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		人権・民主主義・平和を考えるB	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		第4群 現代社会の諸問題A	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		現代社会の諸問題B	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		第5群 異文化・世界にふれるA	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		異文化・世界にふれるB	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		第6群 自己・人間をみつめるA	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		自己・人間をみつめるB	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		第7群 キャリアデザインA	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		キャリアデザインB	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		第8群 全学共通特殊講義A	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		全学共通特殊講義B	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
小計(76)科目		—	2	144	0	—									58		
専門基礎科目	人体の構造と機能 疾病と治療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		人間と栄養	1後	1			○								兼1		
		微生物学	1後	1			○								兼1		
		生化学	1後	1			○								兼1		
		臨床心理学概論	2前	1			○								兼1		
		発達心理学	2後	1			○								兼1		
		小計(7)科目	—	8	1	0	—									5	
		疾病・治療学Ⅰ (急性期・総論/運動・感覚器)	2前	1			○									兼1	
		疾病・治療学Ⅱ (急性期・臓器別疾患)	2後	1			○									兼1	
		疾病・治療学Ⅲ (慢性期・総論/全身疾患)	2前	1			○			1							
		疾病・治療学Ⅳ (終末期・緩和医療)	3前	1			○				1						
		疾病・治療学Ⅴ (小児・性と生殖医療)	2後	1			○									兼1	
		疾病・治療学Ⅵ (精神医療)	3前	1			○				1						
		病態論	1後	1			○				1						
		薬理学	2後	1			○									兼1	
救急救命Ⅰ	1前	1			○									兼1			
救急救命Ⅱ	2前	1	1		○									兼1	集中		
スポーツ医学概論	4前	1	1		○									兼1			
東洋医学概論(漢方)	3前	1			○				2								
臨床検査学概論	2前	1			○									兼1			
小計(13)科目	—	11	2	0	—			1	2					5			

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ・健康科学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	郷土論 (埼玉学)	1前	1			○									兼1	
	公衆衛生学	1後	1			○			1							
	保健医療統計学	1後	1			○			1							
	医療情報学	1後	1			○			1							
	健康科学実践	2前	1			○									兼5	オムニバス・共同 (一部) ※演習、実習
	保健医療福祉制度論	2前	1			○									兼1	
	社会福祉学	2後		1		○									兼1	
	生命倫理学	2前		1		○									兼1	
	チーム医療論	2前	1			○			2	1	1				兼1	オムニバス
	小計 (9) 科目	—	—	7	2	0	—	—	—	3	1	1			9	
看護の基礎	基盤看護学概論	1前	1			○			1							
	生活支援技術論 I	1後	1				○		1	1	1	2	3		共同	※講義
	生活支援技術論 II	1後	1				○		1	1	1	2	3		共同	※講義
	医療支援技術論 I	2前	1				○		1	1	1	2	3		共同	※講義
	医療支援技術論 II	2後	1			○			1	1	1	2	3		共同	※演習
	看護方法論	1後	1			○			2	1	1	2	3		オムニバス・共同 (一部) ※演習	
	看護理論	1前	1			○			1							
	看護倫理	2後	1			○			1							
	看護コミュニケーション論	2前	1			○			3	5	7	7	14		オムニバス・共同 (一部) ※演習	
	小計 (11) 科目	—	—	12	0	0	—	—	—	4	5	7	7	14		
専門科目	成人看護学概論	2前	1			○			1							
	成人看護学方法論 I (急性期)	2後	1			○				1		1			オムニバス	
	成人看護学方法論 II (慢性期)	2後	1			○			1		1	1			オムニバス	
	成人看護学演習	3前	1				○		1	1	1	2	3		共同	
	老年看護学概論	2前	1			○			1							
	老年看護学方法論 I (医療支援看護)	2後	1			○			1	1						
	老年看護学方法論 II (生活支援看護)	3前	1			○			1	1			2		オムニバス・共同 (一部) ※演習	
	老年看護学演習	3前	1				○		1	1			2		共同	
	小児看護学概論	2前	1			○				1						
	小児看護学方法論	2後	2							1	1					
	小児看護学演習	3前	1				○			1	1		3		共同	
	母性看護学概論	2前	1			○			1							
	母性看護学方法論	2後	2			○			1		1	1			オムニバス・共同 (一部)	
	母性看護学演習	3前	1				○		1		1	1	3			
	リプロダクティブヘルス看護学	2前	1			○			2	1					オムニバス	
	精神看護学概論	2前	1			○				1	1				オムニバス	
	精神看護学方法論	2後	2							1	1	1			共同	
	精神看護学演習	3前	1				○				1	1	1		共同	※講義
	地域看護学概論	1後	1			○				1					兼1	共同
	地域健康支援論	2前	1			○			1	1	1				兼1	共同
在宅看護学概論	2前	1			○				1	1						
在宅看護学方法論	2後	1			○			1	1	1	1			オムニバス・共同 (一部) ※演習		
在宅看護学演習	3前	1				○			1	1	1	2		共同		
地域包括ケア概論	1後	1			○			2	1					兼1	オムニバス ※演習	
地域包括ケア方法論	3後	1				○		2	1	1		5		兼1	オムニバス・一部共同 ※講義	
地域包括ケア演習	4前	1				○		1	3	1		11		兼1	共同	
小計 (26) 科目	—	—	29	0	0	—	—	—	5	5	5	5	14	1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツ・健康科学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
看護の 実践Ⅱ (臨地実習)	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	3後	3					○		1			2	1	共同 共同 共同
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後	3					○	1	1			2	2	
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1					○	1	2	1	3	13		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3					○	1	1			2	2	
	小児看護学実習	3後	2					○		1	1		3	3	
	母性看護学実習	3後	2					○	1		1	1	3		
	精神看護学実習	3後	2					○			1	1	1	1	
	在宅看護学実習	3後	2					○		1	1	1	2	2	
	地域包括ケア実習	4前	2					○	1	1	2	6	11		
	統合実習	4前	2					○	3	5	6	7	14		
小計(10)科目	—	—	22	0	0	—			4	5	6	7	9		
看護の 実践Ⅲ (看護の 発展)	クリティカルケア論	3前		1				○		3	1				オムニバス
	地域リハビリテーション看護概論	3前		1				○							兼1
	緩和ケア論	3前		1				○	1	2	1				オムニバス
	がん看護	3前	1					○	1	1	1				オムニバス
	看護実践能力強化演習	4後	1					○	1	3	4	7	3		共同
小計(5)科目	—	—	2	3	0	—			2	5	4	7	3	1	
看護の 統合	東洋文化と看護	4前		1				○		2					共同
	看護研究Ⅰ	3前	1					○	5						共同
	看護研究Ⅱ	4通	2					○	5	5	6	6			共同
	家族看護学	4前	1					○		2					兼1 オムニバス
	看護管理学概論	4前	1					○	1						
	国際看護学	4前		1				○		1	1				共同
	医療安全論	4前		1				○	1						
	災害看護学	4前		1				○		1	1	1			共同
小計(8)科目	—	—	5	4	0	—			6	6	7	6	1		
合計(184科目)		—	106	167	0	—			7	6	7	7	14	78	
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
『総合基礎科目』のうち20単位以上(必修科目10単位、選択科目10単位以上)、『専門基礎科目』のうち29単位以上(必修科目26単位、選択科目3単位以上)、『専門科目』のうち75単位以上(必修科目70単位、選択科目5単位)の合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:42単位(年間))								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 基本スキル科目 大学入門	基礎ゼミナール	自らの大学生生活の学修目標の設定と、その実現に向けた学修計画の設計を行う。また、大学生生活に必要な学修技能であるレポート作成、文献検索方法と資料の収集、文献の読解等の基礎的な技能を身に付け、主体的な学修態度、科学的思考を獲得することを目標とする。看護専任教員の全身体制による少人数制ゼミナール形式とし、PBL手法等グループワークの形態をとる。なお、助教は講義の補助及び演習指導を担当する。	共同
	コモンスキル	従来家庭教育や日常的なコミュニティの範囲で身につけていた基礎的な対人関係スキル、コミュニケーション能力は、家族形態の多様化やコミュニケーションツールの発達、コミュニティの変化などで、大学入学時点では個人差が生じていると考えられる。本科目では、基本的な礼儀・礼節や社会人としての一般常識、コミュニケーションの原則、日常的なTPOに応じた基礎的な対人関係スキルの獲得を目標に、講義とロールプレイなどの演習から学ぶ。 本科目の科目責任者は、甲賀ひとみである。 (オムニバス方式/全15回) (⑤ 甲賀ひとみ/3回) 自己分析、自己理解・他者理解について学修する。 (15 渡部富栄/2回) コミュニケーション原則と構成要素、基本的な対人関係構築に必要なコミュニケーションスキルについて学修する。 (① 村松由紀/2回) 基本的な礼儀・礼節、社会人として身につけておかなければならない一般常識や基本的な態度を修得する。 (① 村松 由紀、4 糸井 裕子、5 水野(今井) 千奈津、② 王麗華、③ 長田 泉、10 須佐 公子、④ 草刈 由美子、13 本山(堀内) 仁美、⑤ 甲賀 ひとみ、16 鈴木 明美、⑥ 伊藤 直子、18 荒井 洋子、⑧ 鈴木 秀樹、20 奥平 寛奈、⑦ 川島 雅子、21 野崎 百合子、22 山口 浩美、23 黒田 美香、24 滝沢 隆、25 野崎 裕之、⑨ 高安 令子/8回)(共同) 基本的な礼儀・礼節、社会人としての基本的なコミュニケーションスキルを獲得するためのロールプレイ等の演習。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：14時間 演習：16時間
	情報処理	現在は医療の世界でも、コンピュータやネットワークを中心とする情報処理技術なしでは業務の遂行が困難になりつつある。また、看護学の学修を進める上で、レポートや資料の作成、最新の研究成果などデータの収集を行うために、コンピュータを活用できるようにすることが重要である。本授業では、コンピュータリテラシーを身につけることを目標とし、コンピュータ・ネットワーク概論を講義形式で、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、インターネット・メール、文献検索、ネットワークセキュリティなどの活用方法を演習によって体得させる。	講義：8時間 演習：22時間
	人間関係論	人間関係を形成するために必要な、人間関係の法則や基礎理論を修得し、自己理解や他者理解を深め、人間関係の築き方を理解する。また、援助を必要とする人との人間関係構築の基本について学修する。	
	第一外国語	英語コミュニケーション I	ケアの場面と看護の研究に必要な英語コミュニケーション力の基礎を固めていく。その方法として、英語の4技能(リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング)の強化に有効とされる通訳訓練法を用いる。まず、ゆっくりした生のスピーチやニュースを抜粋し、それらのテキストを頭から順送りに訳す方法を学ぶ。さらに同じスピーチの音声をシャドローイングや区切り聴きにより頭から順送りに音声を理解し、その内容を自分の英語で再生できるようにする。並行して、論理的に整理された簡潔な英語を作るために、英語にしやすい日本語への変換の仕方、要約、ラベリングとナンバリング、時系列表現・原因と結果の表現・比較と対比の表現を学ぶ。日常生活での英語の表現力を強化するために、「物の位置関係」・自己紹介・敬意・要求を表す表現のバリエーションを修得する。

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 基本スキル科目 第一外国語	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠで学んだ英語の4技能（リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング）を実生活で使えるようにすることを目指す。外国人の患者や家族が病院に来て、実際の診療に至るまでの場面（総合案内での受診科の確認、受診登録、診療科や検査室への案内、次回の予約、会計、薬局での薬の受け渡し、簡単な事前問診）を想定して、関連場面の英語対話の演習と、その場面の通訳演習も行う。2年生の選択科目「医療英語」を受講する前の基礎の学修になる。	
	英語コミュニケーションⅢ	ーアカデミック・ライティングからプレゼンテーションへ 1ー 大学の看護学生に必要なアカデミック・ライティングを学ぶとともに、書いた原稿をもとにプレゼンテーションができる力を養成する。まず、パラグラフとエッセイの書き方を学ぶ。テーマの絞り方、内容のリサーチと必要な情報収集、アウトラインの作成、序論（Introduction）・本論（Body）・結論（Conclusion）の展開、そしてサインポスト（スピーチマーカー）の効果的な使い方を知る。健康、保健、看護などに関連した題材をテーマにしてパラグラフを書き、次にエッセイを作成する。パラグラフとエッセイの作成段階では推敲して何度も書き直しをする。完成したパラグラフ、そしてエッセイをスピーチテキストにして、プレゼンテーションを行う。パワーポイントも作成する。基本的な英語の発声、音声表現、マイクの使い方などを身に付け、効果的なプレゼンテーションを行う。	
	英語コミュニケーションⅣ	ーアカデミック・ライティングからプレゼンテーションへ 2ー 英語コミュニケーションⅢでの学修をさらに進め、人を惹きつけることができる、英語のライティングとプレゼンテーションを目指す。TED Talksをいくつか分析し、魅力あるプレゼンテーションの内容と発表の方法を検討する。人に伝える価値があるか、どうしても伝えたいかすることを一つだけ選び、それをサポートするアイデアをいくつも集めて提示順序を考えて、ライティングを完成させる。そして、効果的な非言語情報の使い方を検討し、パワーポイントやポスターなど、有効だと思うツールを活用して、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションのテーマは「大学でのこれまでの学びあるいは経験で、一番心に残ったこと」。	
	医療英語	英語コミュニケーションⅡで学修したことをステップアップさせ、実際の看護・診療場面で外国人患者に対して英語での対話のコミュニケーションができることを目指す。また、医療通訳の基本スキル（逐次通訳、ノートテキング）を修得して診療場面の簡単な通訳ができるようにする。医療通訳者の役割、活用方法、コーディネーションについても検討する。医療場面で生じる可能性のある異文化問題も検討する。日本の医療制度については、書物に掲載されている説明をよく理解し、英語にしやすい日本語に変換して簡単な英語で十分な説明ができるようにする。特に、国民皆保険、フリーアクセス、窓口払い、保険料、医療機関、診療科、受診の流れ（患者の視点で受付から会計までの流れ）などについては、分かりやすい英語で説明できるようにする。	
	英語ゼミナール	前半では1970年以降の国際看護で議論の焦点になっている社会学的な看護研究から、3つの英語の論文あるいはレポートを読む。後半では、自分が考える「看護が導く明るい未来社会」をテーマにリサーチし、原稿を作成して英語でプレゼンテーションを行う。英語コミュニケーションⅠ～Ⅳで学修した英語の書き方や発表の仕方を最大限活用してプレゼンテーションを準備する。国際会議で使われる慣用表現を学び、使えるようにする。プレゼンテーションは、国際会議の形に則り、発表も質疑も英語で進める。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 基本スキル科目 第二外国語	中国語A	ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、（１）ピンインを正確に発音すること、（２）発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記２つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
	中国語B	前期の「中国語A」を引き継ぎ、ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、（１）ピンインを正確に発音すること、（２）発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記２つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
	韓国語A	「韓国語A」は、「韓国語B」とあわせて履修する初心者のための授業である。韓国語は日本語と文法的に非常に似ている。まず、ハングル文字と発音を学ぶ。正確な発音の修得を心がけたうえで基本文法や句型を学修する。文字と発音の学修ではハングル文字を正確に読み書きできるように練習する。韓国語の読み書きと基礎文法の修得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
	韓国語B	「韓国語B」では、文法と会話を学ぶ。文法と会話の学修では基礎的な文法と日常会話の練習を通じて身につけていく。韓国語の読み書きと基礎文法の修得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
	フランス語A	教室内で学んだフランス語が実際の場で使えるのだという実感を味わいながら、文法知識の修得のみに偏らない初級フランス語の力をつけることを目標に授業を進める。聞く、話す、読む、書くという言語行為の全てをまんべんなく繰り返し行えるような授業を行う。具体的には、毎回必ず声に出してフランス語を発音し、理解した文法事項が日常生活や旅行などで生かせるように簡単な文章を組み立てたり頻度の高い言い回しを覚えてゆくように努める。実用フランス語技能検定試験５級合格程度、あるいはそれ以上の力がつくことを目指す。	
	フランス語B	前期の「フランス語A」を引き継ぎ、実際の場で使えることが実感できるようなフランス語の授業を行う。実用フランス語技能検定試験５級以上の力がつくことを目指して学修する。授業の到達目標は、（１）フランス以外でフランス語を使用する国々についての知識を修得すること、（２）教科書に書かれているフランス語を基にして自分自身で文章を組み立てること、（３）フランス語の音読がさらに流暢になることである。	
	ドイツ語A	週１回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、（１）正しくドイツ語を発音すること、（２）ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、（３）挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じてCDやDVDを使用する。	
	ドイツ語B	前期「ドイツ語A」を引き継ぎ、週１回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、（１）正しくドイツ語を発音すること、（２）ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、（３）挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じてCDやDVDを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化（人文系）	哲学A	哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。 開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。	
	哲学B	哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。 開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。 上記『哲学A』を修得後、『哲学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	文学A	主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。 開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。	
	文学B	主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。 開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。 上記『文学A』を修得後、『文学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	論理学A	ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学（記号論理学）の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。 開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。	
	論理学B	ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学（記号論理学）の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。 開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。 上記『論理学A』を修得後、『論理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	倫理学A	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理的にものを考えるとはどういうことか」について考えていく。 開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。	
	倫理学B	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理的にものを考えるとはどういうことか」について考えていく。 開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。 上記『倫理学A』を修得後、『倫理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	宗教学A	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。 開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。	
	宗教学B	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。 開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。 上記『宗教学A』を修得後、『宗教学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	歴史学A	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。 開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代思想史」など。	
	歴史学B	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。 開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代思想史」など。 上記『歴史学A』を修得後、『歴史学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	考古学A	考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。 開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。	
	考古学B	考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。 開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。 上記『考古学A』を修得後、『考古学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	文化史A	文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。 開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。	
	文化史B	文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。 開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。 上記『文化史A』を修得後、『文化史A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	芸術学A	音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。 開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。	
	芸術学B	音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。 開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。 上記『芸術学A』を修得後、『芸術学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要						
(スポーツ・健康科学部看護学科)						
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考			
総合 基礎科目	全学 共通科目	基本 科目	A系 人間と 文化(人 文系)	地理学A	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。	
				地理学B	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。 上記『地理学A』を修得後、『地理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
				言語学A	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながら考える。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。	
			言語学B	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながら考える。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。 上記『言語学A』を修得後、『言語学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。		
			法学A	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。		
			法学B	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。 上記『法学A』を修得後、『法学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。		
		B系 社会と 生活(社会 系)				

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 B系 社会と生活(社会系)	社会学A	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係性を多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。 開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。	
	社会学B	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係性を多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。 開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。 上記『社会学A』を修得後、『社会学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	政治学A	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではいられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。 開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。	
	政治学B	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではいられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。 開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。 上記『政治学A』を修得後、『政治学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	経済学A	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気との関係を考える。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。 開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。	
	経済学B	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気との関係を考える。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。 開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。 上記『経済学A』を修得後、『経済学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 B系 社会と生活(社会系)	心理学A	私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。 開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人とのかかわり」など。	
	心理学B	私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。 開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人とのかかわり」など。 上記『心理学A』を修得後、『心理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	教育学A	ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。 開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。	
	教育学B	ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。 開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。 上記『教育学A』を修得後、『教育学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	民俗学A	民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具(民具)や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的変化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。 開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。	
	民俗学B	民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具(民具)や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的変化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。 開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。 上記『民俗学A』を修得後、『民俗学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ・健康科学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目	B系 社会と生活 (社会系)	文化人類学A	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域(日本の各地域や異文化)においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象(葬送儀礼等)や行事(祭礼等)から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。
	文化人類学B	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域(日本の各地域や異文化)においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象(葬送儀礼等)や行事(祭礼等)から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。 上記『文化人類学A』を修得後、『文化人類学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	数学A	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微積分入門」など。	
	数学B	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微積分入門」など。 上記『数学A』を修得後、『数学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	地学A	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。	
	地学B	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。 上記『地学A』を修得後、『地学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	C系 自然と環境 (自然系)		

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 C系 自然と環境(自然系)	生物学A	生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。 開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。	
	生物学B	生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。 開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。 上記『生物学A』を修得後、『生物学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	生態学A	多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。 開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。	
	生態学B	多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。 開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。 上記『生態学A』を修得後、『生態学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	現代科学A	人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題(資源枯渇や環境問題)、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。 開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。	
	現代科学B	人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題(資源枯渇や環境問題)、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。 開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。 上記『現代科学A』を修得後、『現代科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目	C系 自然と環境（自然系）	情報科学A	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータがもたらすさまざまな社会的影響や問題点について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。
		情報科学B	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータがもたらすさまざまな社会的影響や問題点について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。 上記『情報科学A』を修得後、『情報科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。
		自然科学A	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどういうものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。
		自然科学B	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどういうものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。 上記『自然科学A』を修得後、『自然科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。
	D系 健康とスポーツ（保健体育系）	総合体育A	健全で有意義な学生生活を送るための基本となる健康管理について、その基礎的な知識と実践能力の修得を目標とする。健康に関する講義は、「栄養素と摂取バランス」、「スポーツ障害と外傷」、「青年期の性とSTD」をテーマに前期3回行う。実技種目は初回授業時に、5～6種目の中から、希望するものを選択する。5月上旬に「踏み台昇降運動、反復横とび、立位体前屈、垂直跳び、握力」の5種目による体力診断テストを行う。
		総合体育B	実技種目は原則として、総合体育Aで履修した授業を継続する。健康に関する講義は、「人間の健康と運動」、「トレーニングの基礎理論」、「心とからだ」をテーマに後期3回行う。12月初旬に前期と同じ内容の体力診断テストを行い、一年間の実技授業における体力面での成果を確認する。
		健康スポーツ科学A	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。
		健康スポーツ科学B	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。 上記『健康スポーツ科学A』を修得後、『健康スポーツ科学A』で選ばなかったテーマを選んで、履修する。

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目 D系 健康とスポーツ (保健体育系)	体育実技A	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。	
	体育実技B	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。 上記『体育実技A』を修得後、『体育実技A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	
	野外実習A	数日間の合宿によってスキーやスクーパーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をとおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーパーダイビング」など。	
	野外実習B	数日間の合宿によってスキーやスクーパーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をとおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーパーダイビング」など。 上記『野外実習A』を修得後、『野外実習A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 課題(テーマ)科目	第1群	地域・国家・民族の考察A	沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域(村落と都市)について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。
		地域・国家・民族の考察B	沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域(村落と都市)について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。上記『地域・国家・民族の考察A』を修得後、『地域・国家・民族の考察A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。
	第2群	女性・子ども・老人への視点A	日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。開講するテーマは『『フルハウス』に見る子ども心』、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。
		女性・子ども・老人への視点B	日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。開講するテーマは『『フルハウス』に見る子ども心』、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。上記『女性・子ども・老人への視点A』を修得後、『女性・子ども・老人への視点A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。
	第3群	人権・民主主義・平和を考えるA	本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。
		人権・民主主義・平和を考えるB	本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。上記『人権・民主主義・平和を考えるA』を修得後、『人権・民主主義・平和を考えるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。

授 業 科 目 の 概 要					
(スポーツ・健康科学部看護学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
総合基礎科目	全学共通科目	課題(テーマ)科目	第4群		
			現代社会の諸問題A	「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。 開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性の思想」など。	
			現代社会の諸問題B	「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。 開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性の思想」など。 上記『現代社会の諸問題A』を修得後、『現代社会の諸問題A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
			異文化・世界にふれるA	アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。 開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。	
			異文化・世界にふれるB	アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。 開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。 上記『異文化・世界にふれるA』を修得後、『異文化・世界にふれるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
			自己・人間をみつめるA	この科目は、自分を見つけること、ひいては人間を見つけることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえで講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つけることを学ぶ。 開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。	
第6群					

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目	第6群 自己・人間をみつめるB	この科目は、自分を見つけること、ひいては人間を見つけることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえて講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つけることを学ぶ。開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。上記『自己・人間をみつめるA』を修得後、『自己・人間をみつめるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	第7群 キャリアデザインA	大学は学生にとって社会への移行を直前に控えた最終の学校教育である。本講義は学校から社会へ移行していく学生が主体的に自らのキャリアを形成していくことができるよう、現代社会における労働や雇用問題等を取り上げながら、複数の視点から自らの考えを分類、整理し発言する力や自己アイデンティティの形成、他者との相互関係のなかでの学びのありようなどキャリア形成のための基礎的な能力や態度の育成を目指す。	
	第7群 キャリアデザインB	産業構造や雇用形態、個々人のライフコースの変容により将来を予測することが非常に困難になりつつある現代において主体的にキャリアを形成していくことは非常に重要である。本講義では、現代社会において求められる能力や多様化するライフコース、企業や産業の動向などを学ぶと同時に自らの経験や考え方を整理することにより主体的な将来展望の構築とそのための行動を促す。	
	第8群 全学共通特殊講義A	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物（植物・動物）、地学（地形・地質）など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。	
	第8群 全学共通特殊講義B	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物（植物・動物）、地学（地形・地質）など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。上記『全学共通特殊講義A』を修得後、『全学共通特殊講義A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	人体を構成する身体各部位の形態・構造およびその機能・役割について、人間が生きることやそのための日常生活行動を枠組みとして構成し学修する。総論では、人体を構成する細胞、組織、器官がどのように統合され成り立っているのかを学ぶ。各論では、①恒常性を維持するための物質の流通(流通の媒体:血液、流通路:血管・リンパ管、流通の原動力:循環器系)、②恒常性維持のための調節機構(神経性調節、液性調節、ストレスと恒常性)感覚系、内分泌系)③からだを動かす(運動器系:筋・骨格系)について学修する。
		人体の構造と機能Ⅱ	人体の構造と機能Ⅰに引き続き、息をする(呼吸器系)、食べる(消化器系)、トイレに行く・排泄する(泌尿器系)、子どもを産む(生殖器系)の形態・構造および機能・役割について学修する。
		人間と栄養	看護対象への健康支援あるいは、食事療法を余儀なくされる対象者への疾患別食事療法について具体的に学び、療養生活の支援に必要な基礎知識の獲得を学修目標とする。内容として、食物摂取に係る生理機能、栄養の吸収、代謝、異化のプロセスやライフステージにおける栄養素の必要量等や特徴について学修する。
		微生物学	微生物と人との関係性を理解し、人に感染症を引き起こす細菌・真菌・ウイルス・寄生虫等の構造や基本知識を修得する。そして、病原微生物の感染経路や感染様式について学び、病原微生物が人間の健康障害を引き起こす機序と、感染予防の原理、基本的原則について学修する。
		生化学	人体を構成する物質や、生体の最小基本単位である細胞の役割とタンパク質や糖の代謝、ホルモンや酵素の働き、体液と電解質、血液、免疫の働きなど、生体内部の働きについて学修する。
		臨床心理学概論	基本的な心理学的知識や心理検査、面接の目的、特徴について学ぶ。また、対象者を理解するために、自分自身と向き合い、自己を見つめ、感性を磨くための学修を行う。そして、こころの健康を維持するために、心理学的な援助のあり方や方法について理解する。
		発達心理学	看護の対象である人間が、生涯を通して発達する存在であることを理解し、ライフステージそれぞれの特徴と、各時期に起こりやすい身体的・心理的・社会的問題を理解する。そして、健康の維持、増進のための支援を考える上で、必要な基本的知識を学修する。
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅰ (急性期・総論/運動・感覚器)	運動・感覚器に関する疾患について、診断のための検査や診断基準、症状、予後、基本的な対応と治療および最新の治療法について学ぶ。それにより、看護の基礎として、健康障害を学修する視点と方法を身につける。
		疾病・治療学Ⅱ (急性期・臓器別疾患)	急性疾患について、診断のための検査や診断基準、症状、予後、基本的な対応と治療および最新の治療法について学ぶ。それにより、看護の基礎として、健康障害を学修する視点と方法を身につける。

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 基 礎 科 目	疾 病 と 治 療	疾病・治療学Ⅲ (慢性期・総論/全身疾患)	慢性疾患について、診断のための検査や診断基準、症状、予後、基本的な対応と治療および最新の治療法について学ぶ。それにより、看護の基礎として、健康障害を学修する視点と方法を身につける。	
		疾病・治療学Ⅳ (終末期・緩和医療)	終末期医療とは、進行がんなどの末期状態にある人や、余命の限られている患者さんが、最後まで人間らしく尊厳を持って生活し、生活の質が高められるように行う医療行為であり、そのために苦痛を軽減することが緩和医療である。終末期医療と緩和医療に関する基本的知識を学修する。	
		疾病・治療学Ⅴ (小児・性と生殖医療)	小児期および生殖器系の特徴的な疾患について、診断のための検査や診断基準、症状、予後、基本的な対応と治療および最新の治療法について学ぶ。それにより、看護の基礎として、健康障害を学修する視点と方法を身につける。	
		疾病・治療学Ⅵ (精神医療)	精神障がいに関する精神医学について理解する。主な精神疾患の病態や精神症状、検査、診断基準、予後、治療方法について学修する。	
		病態論	疾病の原因を系統的に分類し、疾病の成り立ちと、人体を構成する臓器、組織、細胞等にかかる構造や機能の変化から疾病との関連を学修する。先天異常や代謝異常、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、腫瘍のメカニズムを病理学的に理解し、看護判断の根拠となる病態理解につなげられるように学ぶ。	
		薬理学	薬物療法における薬理作用、体内における吸収と排泄の機序、人体に及ぼす利益と危険性を理解し、薬物を扱う上での基礎的知識、技術、態度を学修する。また、小児や妊婦、高齢者等の特別な配慮を要する場合の薬物治療の原則について学ぶ。臨床現場で使用される、抗感染薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、各臓器に作用する薬剤等について学修する。	
		救急救命Ⅰ	CPR・AEDの救急処置法だけではなく、体育・スポーツ施設にて起こり得る緊急時の救急処置法(スポーツ救急手当法)についての知識と技術を学ぶ。	
		救急救命Ⅱ	救急救命Ⅰで修得した知識・技術をさらに応用・発展させる。外科系・内科系を問わず、急性疾患の病態生理学を学び、救急外来での初期診療から院内での集中治療室や急性期系の病室への入室までの救急救命医療について学修する。	
		スポーツ医学概論	一般市民によるスポーツの有無が人々に与える影響を分析し、その所見を疾病・介護予防、治療、リハビリテーションなどに役立てる。また、競技レベルの高いスポーツにおいては、その活動中に発生する事故や外傷などに対してどのような対処方法が必要なのかを学修する	
		東洋医学概論(漢方)	東洋医学の思想・考え方を概観し、漢方医療・漢方薬に関する知識を学ぶ。また、全人的医療としての立場から、自然治癒力を引き出そうとする哲学的な東洋医学の基礎的知識を学ぶ。	
		臨床検査学概論	疾病の診断や治療方針を決定するうえで、臨床検査は大変重要である。本科目では、検体検査として血液、微生物、病理、生理機能の検査を中心に、検査結果から疾患と検査データ異常値の仕組や病態把握について学修する。特に、検体検査の場合、看護師が係ることが多いため、検体の正確な採取方法とその取扱い、生体検査に必要な前処置と検査後の観察について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	地域社会と医療福祉	郷土論 (埼玉学)	大東文化大学東松山キャンパスが立地する埼玉県の歴史、風土、民族、自然環境、産業、文化的特徴交通網、人口構造の変化等の学修からその地域社会の理解と郷土愛を育むことをねらう。	
		公衆衛生学	公衆衛生学の概要、疫学(疾病の予防を含む)、人口(人口静態統計、人口動態統計)、母子保健、学校保健、成人保健(老人保健、精神保健など)、環境衛生(公害など)、栄養・食品衛生(食中毒など)、産業保健(職業病など)、衛生行政(保健所活動など)などの講義を通じて、公衆衛生学の意義や目的を明らかにし、健康に対する一般的な概念、健康の保持増進および予防医学を推進する組織的な保健活動の重要性について教授する。	
		保健医療統計学	統計学とは、「多くのデータを要約し、中に含まれている情報を把握しやすくするための手段、あるいは何らかの法則性を見いだす学問」である。統計学は、看護職実務上、看護研究においてケアのエビデンスを知る上で重要な学問である。本講義では、統計の基礎から始めて、推計・検定、多変量解析(回帰分析、因子分析など)などを教授する。さらに、保健医療(看護)の分野で学ぶ公衆衛生学や疫学では統計解析手法に関する知識が必要となる。公衆衛生学や疫学に必要なリスク分析、前向き研究、後ろ向き研究、メタアナリシスなどについて教授する。	
		医療情報学	医療情報学分野の看護師業務に関連する病院情報システムと地域医療情報システムについて教授する。現在、ほとんどの医療機関が病院情報システムを導入して、患者サービス、診療支援などに効果をあげている。看護部門でも、看護業務支援、事故予防などに利用されている。この授業では、看護師業務に必要な病院情報システム(概要、看護情報処理、EBNなど)について解説する。また、地域医療における看護師の役割は大きいことから、地域医療情報システム(検診システム、病院・訪問看護ステーション連携、救急システムなど)を解説する。	
		健康科学実践	近年、我が国では高齢者人口の増加に伴い要介護認定を受ける高齢者が増え続けている。高齢者は加齢による各種疾病やフレイル・サルコペニアなどの虚弱によりADL(日常生活動作)やIADL(手段的日常生活動作)に対する自立度が低下し要介護状態となる。高齢者の健康の維持においては、サルコペニアやフレイル状態になる年齢の先送りが重要な課題の一つである。本授業では、高齢者を取り巻く問題と老年症候群について理解を深め、スポーツ健康科学的観点から、看護師として地域在住高齢者に身体的虚弱を予防する運動実践をするための内容を包括的に学ぶ。 本科目の科目責任者は、田中博史である。 (オムニバス方式/全15回) (33 田中博史/4回) ガイダンスとイントロダクション、日本の高齢化を取り巻く課題(講義)、高齢者におけるサルコペニア・フレイル(講義)、高齢者の健康とスポーツに関する総括 (31 琉子友男/3回) 高齢者の体力(講義)、高齢者における体力の維持・向上プログラム(講義)、高齢者における体力評価法(演習) (32 只隈伸也/3回) 健康ウォーキングの基礎理論(講義)、健康ウォーキングの至適運動強度と実践(実習)、健康ウォーキングの指導法と評価法(実習) (76 鹿島文博/2回) 健康体操を利用した筋力トレーニングの実際(実習)、健康体操を利用した筋力トレーニングの指導法(実習) (30 鈴木明/3回) ニュースポーツがもたらす心身の健康(講義)、高齢者向けニュースポーツの紹介と実際(実習)、高齢者向けニュースポーツの指導法と評価法(実習)	オムニバス・共同(一部) 講義：16時間 演習：14時間 実習：12時間

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	地域社会と医療福祉	保健医療福祉制度論	保健・医療・福祉制度の仕組みや理論、成り立ち、歴史的背景について基礎的知識を修得する。人々の生活や健康を守るために必要な保健・医療・福祉の財政や具体的制度、連携を学び、社会情勢の変化に伴う動向と背景について理解する。	
		社会福祉学	人々のふつうの暮らしを支えるための理念と歴史、社会保障制度について学修する。健康状態に応じた人々の生活を支える制度として、社会福祉の必要性、関係法規を理解する。高齢者、障がい者福祉、児童家庭福祉について具体的な福祉の考え方、制度、施策等を学修する。	
		生命倫理学	生命科学の発展はめざましく、iPS 細胞関連技術、がん治療の最先端医療技術、植物・動物の育種から遺伝子組換え技術など、私達の身近なものに応用されている。生殖医療補助技術(対外受精)、遺伝子診断技術や遺伝子治療など、受精から死まで医療の操作が加わる時代になった。生命倫理は、生と死がどう関わらるべきかを考え、生命に関する倫理的な問題を取り扱う。生命倫理の課題と人の尊厳や人権について考え、医療人としての倫理観を培う。	
		チーム医療論	対象者への全人的支援を行うためには、保健・医療・福祉の各専門職が、他職種の専門性を理解し、併せて職種間の関連性について理解することが重要である。保健・医療・福祉の各専門職が目指すべき役割と連携のあり方について学修する。さらに、疾病や障がいを抱えながら、家庭、学校、職場、地域で生活する対象者を支援するために、医療職と関係職種(民生委員、養護教諭、学校の教諭、産業保健師など)との連携の方法や課題についても学修する。 本科目の科目責任者は、森田恵子である。 (オムニバス方式/全8回) (6 森田恵子/4回) 総論、高齢者を取り巻くチーム医療の役割と連携 (1 杉森裕樹/1回) 学校保健・産業保健とチーム医療の役割・連携 (60 蕪木智子/1回) チーム医療における管理栄養士の役割と連携 (5 甲賀ひとみ/1回) 地域における精神科医療とチーム医療の役割・連携 (3 長田泉/1回) 子どもを取り巻くチーム医療の役割と連携、保健・医療・福祉の関連職種との連携	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 基 盤	基盤看護学概論	看護学への導入となる科目であり、看護の概念と定義、看護の機能、看護の対象である人間の捉え方、健康の概念、看護制度と看護教育制度、看護の倫理、保健・医療・福祉チームと看護等の看護の基本的体系について広く学修する。あわせて、看護の歴史的変遷をふまえて、現在の看護の役割と看護の提供のしくみについて理解する。	
		生活支援技術論 I	看護における療養環境調整の技術とは、環境調整の要素への働きかけが主題ではない。看護の対象者と環境調整の要素がお互いに連動して成立するものである。したがって対象者の日常生活行動とからだのしくみを理解し、環境調整の目標である「健康状態の回復」に向けた技術提供が必要になる。具体的には、ボディメカニクス、環境、活動と休息、清潔、感染予防の技術について学修する。講義で必要な知識を修得し、十分な事前学修を行った後、学生同士あるいは教育モデルを対象に技術演習を行う。演習を通して、技術の修得だけでなく、援助者に求められる態度についても学修する。	共同 講義： 12時間 演習： 18時間
		生活支援技術論 II	消化器系の知識を基盤に「食べる」「トイレに行く・排泄する」という日常生活行動の支援技術について学修する。さらに、転倒・転落を予防し、療養環境の安全を守るための技術と安楽を促進するための技術について学ぶことで、看護の対象者へ安全に医療を提供できる療養環境とは何かを考える。生活支援技術論 I の学修を踏まえ、様々な健康レベルにある人の各状況にあわせて生活を整えられるように、演習を通して看護技術を修得する。	共同 講義： 12時間 演習： 18時間
		医療支援技術論 I	対象者を総合的に把握するために重要なフィジカルアセスメントに関する原理を学び基本的技術を修得していく。この技術は、主観的情報である問診と客観的情報である視診・触診・聴診・打診で構成され対象の身体面の情報収集と健康レベルを判断する観察技術である。フィジカルアセスメントには、技術修得だけでなく対象者と援助者の人間関係の形成が大切であり、援助を行うために必要なコミュニケーション理論・技法を意識づけしながら学修していく。講義で必要な知識を修得し、十分な事前学修を行った後、学生同士あるいは教育モデルを対象に技術演習を行う。	共同 講義： 14時間 演習： 16時間
		医療支援技術論 II	対象者に対する診療過程に伴う基本的な技術の原理と原則を学び、安全かつ正確な基本的技術を修得していく。具体的には、診察時の援助技術、検査時の援助技術、薬物療法時の援助技術、吸入・吸引の援助技術、皮膚・創傷管理技術について学修する。講義で必要な知識を修得し、十分な事前学修を行った後、学生同士あるいは教育モデルを対象に技術演習を行う。援助を受ける対象者の役割体験を通し、対象者の心理的側面についても学修する。	共同 講義： 16時間 演習： 14時間
		看護方法論	看護の対象である個人と家族について、ライフサイクル、機能、および生活や療養の場という3つの視点と健康上のニーズからその特徴を学修する。また、看護と健康にかかわる課題の特徴についても学ぶ。さらに、看護を科学的、理論的に提供するためには、対象者を適切にとらえ看護を必要とする問題を抽出し、その解決に向けた目標設定・計画立案のもと、実施・評価していくことが必要である。そのための方法論である看護過程について、概念や必要性、プロセスなど基本的事項を学修し、事例を用いて個別あるいはグループで看護過程を実際に展開する。この能動的学修を通して、看護過程の展開について理解を深めるとともに、実践適用できるための能力を修得する。なお、助教は講義の補助及び演習指導を担当する。本科目の科目責任者は村松由紀である。 (オムニバス方式/全15回) (① 村松由紀/10回) 看護の対象者とその家族の健康上のニーズを把握し、看護の思考プロセスである看護過程の一連の展開について理解する。 (① 村松由紀、2 豊嶋三枝子、④ 草刈由美子、20 奥平寛奈、⑧ 鈴木秀樹、23 黒田美香/5回) 事例を基に看護過程の展開をグループワークにて学修する。	オムニ バス方 式・共 同(一 部) 講義： 20時間 演習： 10時間

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 基 盤	看護理論	看護理論はサイエンスとしての看護の基盤であり、科学的根拠を持った看護実践を可能にする知識体系の一つである。代表的な看護理論を学び、看護の概念（人間、健康、環境、看護）及び概念間の関係性を理解することで、自己の看護についての考えを明確にしていくとともに、看護実践への活用についても学修していく。	
		看護倫理	看護倫理の基本的な知識について学修し、倫理的問題の特徴とその共通性について理解する。これらの倫理的問題に対して、看護専門職として倫理的判断をするための意思決定のプロセスについて学ぶ。臨地実習で体験したさまざまな臨床場面について具体的に教材化を図り、グループワーク等で倫理的判断の意思決定プロセスを体験する。	
		看護コミュニケーション論	「コモンスキル」の学修内容である、社会人としての一般常識やマナーなど基本的な対人スキルを獲得した後に、看護師としてあるいは臨床の看護場面で求められる看護の対人スキルの基本を学ぶ。具体的には、看護におけるコミュニケーションは、さまざまな理論を基に展開される意図的な行為であり、対人関係や相互作用、援助的関係の過程、治療的コミュニケーションなどを、講義と少人数制のグループ編成による演習から学ぶ。 本科目の科目責任者は村松由紀である。 (オムニバス方式/全15回) (15 渡部富栄/2回) チームの中でのコミュニケーションにおけるコンフリクト・アプローチ方法を学ぶ (① 村松由紀/4回) 臨床の看護場面で求められるコミュニケーションについて理解し、コミュニケーションの理論を踏まえた具体的な方法論を学ぶ。 (⑤ 甲賀ひとみ/3回) 治療的コミュニケーションに関する方法論を学ぶ。 (① 村松 由紀、4 糸井 裕子、5 水野(今井) 千奈津、② 王麗華、③ 長田 泉、10 須佐 公子、④ 草刈 由美子、13 本山(堀内) 仁美、⑤ 甲賀 ひとみ、16 鈴木 明美、⑥ 伊藤 直子、18 荒井 洋子、⑧ 鈴木 秀樹、20 奥平 寛奈、⑦ 川島 雅子、21 野崎 百合子、22 山口 浩美、23 黒田 美香、24 滝沢 隆、25 野崎 裕之、⑨ 高安 令子/6回) (共同・演習) 看護・臨床場面で求められる対人スキルの基本を演習より学ぶ。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：18時間 演習：12時間
		基盤看護学実習 I	健康障害をもつ看護の対象者と直接触れ、看護師の働く実際をシャドウイングすることで、対象とその療養環境を理解する。併せて、「看護」を学ぼうとする関心を高め、進路選択の動機づけを確認する機会とする。学修の形態としては、看護師とともに行動し、看護の対象者への関わり方や対象者の反応・言動の実際を見学する。また、看護の対象者とのコミュニケーションにより、その人の考えや思いを知ること、今後の看護を学ぶ上での課題発見に繋げる。	共同
		基盤看護学実習 II	健康障害をもつ看護の対象者の基本的欲求とその影響因子について、アセスメントし、対象への個別的な看護の援助(計画・実施・評価)から、一連の看護過程の展開に必要な基礎的能力を修得する。また、受け持ち対象者に対し、医療人として正しい態度でよりよい人間関係を築くことを目標とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅰ (理 論 と 方 法)	成人看護学概論	成人の成長発達の特徴について学ぶ。特に成人の役割や健康問題の背景を生活習慣、職業、生活ストレス、セクシャリティ、余暇生活、更年期などの観点から理解する。また、成人の学修者としての特徴を踏まえた健康教育(アンドロゴジー)を学ぶ。さらに健康問題を急激な健康破綻、慢性的な健康の揺らぎやセルフケアの再調整・再構築の観点から捉え、各健康問題に対応した看護の特徴および有用な概念について学ぶ。成人への有用な概念として、「自己効力」「危機」「ストレス・コーピング」「受容過程」「問題解決過程(ゴードン)」について理解する。	
		成人看護学方法論Ⅰ(急性期)	急激な健康破綻と回復過程にある対象・家族の特徴を、侵襲による生体反応をもとに学ぶ。心理的、社会的特徴については、危機、ストレス、受容の観点から学び、回復に向けた看護(苦痛の緩和、周手術期看護)について、その機能・役割、援助方法を修得する。 本科目の科目責任者は本山(堀内)仁美である。 (オムニバス方式/全15回) (13 本山(堀内)仁美/10回) 急性期にある対象の理解、術前・術中・術後の看護、乳房切除術、脳神経機能等身体的機能の再確立が必要な対象・家族に対する日常生活援助方法を学ぶ (24 滝沢隆/5回) 摂食機能、循環機能等の身体的機能再確立が必要な対象・家族に対する日常生活援助方法を学ぶ	オムニバス方式
		成人看護学方法論Ⅱ(慢性期)	慢性的な健康のゆらぎをたどり、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている対象・家族の特徴をアンセルム・ストラウスの慢性疾患の一般的特徴や病みの軌跡をもとに学ぶ。また慢性病(COPD、心不全、胃潰瘍、C型肝炎、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、ALS、慢性関節リウマチ、喉頭喪失など)を持つ対象・家族の療養生活の援助及びセルフマネジメントを推進する看護を修得する。 本科目の科目責任者は糸井裕子である。 (オムニバス方式/全15回) (4 糸井裕子/6回) 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護、慢性期にある対象、家族の特徴等について学ぶ (16 鈴木明美/6回) 慢性の免疫機能障害をもつ患者の看護、慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護について学ぶ (22 山口浩美/3回) 慢性の栄養・代謝機能障害をもつ患者の看護、慢性期の患者のアセスメントの特徴について学ぶ	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看護の 実践Ⅰ (理論と方法)	成人看護学演習	急激な健康破綻と回復過程にある対象および慢性的な健康のゆらぎをたどり、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている対象・家族の身体的、精神的、社会的側面について包括的に理解するために、模擬事例を使用し、基礎看護学の知識・技術を基盤に、成人看護学概論および成人看護学援助論で学修した理論を適用し、社会復帰の観点を踏まえた具体的な看護を修得する。具体的には、問題発見解決型学修(Problem-Based Learning)の教育方法により、大腸がん、糖尿病の模擬事例でアセスメント、計画立案を行う。また、事例に対応した援助として、一次救命処置、術後1日目の援助(酸素療法・吸引・吸入、創傷処置・ドレーン管理) ストーマケア、フットケア、血糖自己測定、インスリン療法、症状マネジメントを修得する。なお、助教は講義の補助及び演習指導を担当する。	共同
		老年看護学概論	日本の高齢社会の現状と課題、身体・精神・社会的側面から加齢変化の特徴と権利擁護について学修する。高齢者体験を通して、高齢者への基本的な日常生活援助の在り方を考察する。	
		老年看護学方法論Ⅰ(医療支援看護)	加齢に伴う身体的・心理霊的・社会的特徴を高齢者模擬体験や共同学修を通して学修する。また、加齢変化の特徴をふまえ老年期に特有な健康障害および治療がおよぼす生活への影響を学修する。それらを通して高齢者がより良い生活を保つための看護実践の方法を修得する。具体的には、高齢者の身体的側面、心理霊的側面、社会的側面のアセスメントと薬物療法・手術療法・リハビリテーションを受ける高齢者の看護実践の方法を修得する。さらに、生活リズムを整える、転倒予防、介護予防などの活動・休息に対する看護実践の方法を修得する。	
	看護の 実践Ⅰ (理論と方法)	老年看護学方法論Ⅱ(生活支援看護)	加齢変化や健康障害、治療が生活におよぼす影響をふまえ、高齢者の生活機能のアセスメントと看護実践の方法を学修する。具体的には、食事(低栄養、脱水、摂食・嚥下障害など)、排泄(排尿障害、便秘など)、清潔・身だしなみ、褥瘡予防に関するアセスメントと看護実践の方法を学修する。また、認知症高齢者への看護、家族への看護、エンドオブライフケア、施設での看護、退院支援などの実践方法を学修する。 本科目の科目責任者は須佐公子である。 (オムニバス方式/全15回) (10 須佐公子/11回) 高齢者の食生活と看護、嚥下障害、排泄、清潔・身だしなみ、褥瘡予防、認知症高齢者の日常生活援助技術、認知症の行動・心理症状、高齢者のエンドオブライフケアについて学ぶ。 (6 森田恵子/2回) 認知症予防ケア及び地域での療養生活を支える施設での看護を学ぶ。 (6 森田恵子/2回 10 須佐公子/2回) (共同) 褥瘡予防ケア演習、認知機能の障害に対するコミュニケーション演習を行う。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：26時間 演習：4時間
		老年看護学演習	高齢者の事例について、生活機能モデルを用いアセスメントし、看護の焦点(看護問題・リスクおよびもてる力と看護長期目標)を抽出する。看護計画を立案し、計画に基づき演習にて実践し、振り返りを行う。それらを通して生活者として高齢者をとらえるために必要なアセスメントの視点と看護実践の方法を学修する。また、演習事例を用いて、地域の社会資源を活用した退院支援および在宅生活の継続のためのケアマネジメントのあり方を考察する。	共同
		小児看護学概論	小児期の発達段階を学修し、それぞれの時期の成長・発達の特徴や、その評価について理解する。また、小児看護の対象である小児と家族をとりまく環境とその変化について学び、小児看護の特徴と理念について知識を深め、子どもへの適切な支援の概要を理解する。さらに、こどもの健康を維持・増進し、支えるための保健・医療・看護の動向や課題について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅰ (理 論 と 方 法)	小児看護学方法論	小児看護学概論で学んだ子どもの特徴をふまえ、疾病や障害をもつ子どもとその家族について倫理的な課題も含めて理解する。具体的には、疾病や健康障害が子どもや家族に及ぼす影響や、子どもによくみられる症状、検査や処置を受ける子どもや、疾病を持ちながら地域で生活をするなど、さまざまな状況にある子どもに適切な援助方法について地域生活を視座にふまえて理解を深め、子どもと家族に適切な看護を実践するための援助方法について学修する。	
		小児看護学演習	小児看護学方法論で学んだ子どもへの援助が実践できるよう、さまざまな状況にある子どもへの基本的な支援方法や技術について学修する。具体的には、事例を用いながら、成長と発達を促しつつ、最良な健康状態を維持できるように、子どもと家族への支援にむけたアセスメントを行い、看護計画を立案し、子どもと家族に必要な援助について学修を深める。なお、助教は講義の補助及び演習指導を担当する。	共同
		母性看護学概論	母性看護学の基本理念であるリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、ウィメンズヘルス(女性の生涯をとおした健康)を左右する状況を理解し、ライフサイクル全般にわたる健康課題を身体的・精神的・社会的な側面から学ぶ。さらに健康課題を解決するためのヘルスクエア、エンパワーメントについて考える。リプロダクティブヘルスにおける重要な課題である女性の健康の維持と増進には、その国の歴史、法律、社会的背景と密接に関連していることを理解し、母性保健に関する統計、関係法規を含め、母性看護学の知識を深める。	
		母性看護学方法論	マタニティサイクル期にある母子とその家族や取り巻く社会的環境の特徴を理解し、健康の維持と向上、健康からの逸脱予防のために必要な看護の基礎知識を学ぶ。具体的には対象の特徴および特性を学び、健康に関するニーズや健康を阻害させる問題に対する看護の役割と援助について修得する。 本科目の科目責任者は水野(今井)千奈津である。 (オムニバス方式/全15回) (5 水野(今井)千奈津/7回) 女性の生涯とマタニティサイクル及び妊娠期に必要な看護について学ぶ。 (18 荒井洋子/6回) 分娩期及び産褥期に必要な看護について学ぶ。 (5 水野(今井)千奈津・21 野崎百合子/2回)(共同) 新生児期に必要な看護について学ぶ。なお、助教は講義の補助を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
		母性看護学演習	妊娠・分娩・産褥期にある女性と胎児や新生児、さらに母子をとりまく家族に対し、多様化する価値観の中での求められる看護援助について、既習の知識を統合させ、看護実践に活用できる思考過程、援助方法を習得する。事例検討、ロールプレイ、実技演習などの課題を通して、母性看護特有の看護実践能力を養う機会とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅰ (理 論 と 方 法)	<p>リプロダクティブヘルス/ライツの考え方をもとに、様々な環境にある女性や母子、その家族の健康支援に向けての基盤となる概念と諸理論の理解を深め、今日的な健康問題ならびに課題をセクシュアリティならびにジェンダーの視点に立って学修する。その上で身体的ならびに精神的、社会的な側面に寄り添い、その人らしい充実した健康支援に向けて、解決するためのエビデンスに基づく実践的な支援活動を学修する。</p> <p>本科目の科目責任者は水野（今井）千奈津である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5 水野（今井）千奈津/6回) リプロダクティブヘルス/ライツを支える諸理論と概念を学び、女性や母子、家族の今日的な健康問題と課題をセクシュアリティならびにジェンダーの視点に立って学修する。</p> <p>(③ 長田泉/1回) 学童期から思春期のリプロダクティブヘルスにおける健康課題と支援について学ぶ。</p> <p>(6 森田恵子/1回) 老年期のリプロダクティブヘルスにおける健康課題と支援について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		<p>あらゆる発達段階・健康状態にある人の精神の健康問題を理解し、対象者の健康を維持・増進するために必要な援助方法と看護者の自己理解の重要性及び倫理的配慮に基づいた姿勢について学ぶ。具体的には、精神保健医療の歴史的背景と法制度、人権擁護の考えかた、精神看護の対象者を取り巻く現代社会の特徴、ライフサイクルに伴う発達課題と精神の健康問題、精神の健康レベルに応じた看護の特徴、治療的コミュニケーション技術と自己洞察のための方法について学修する。</p> <p>本科目の科目責任者は、甲賀ひとみである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑤ 甲賀ひとみ/5回) 精神保健医療の歴史的背景と法制度、人権擁護の考えかた、精神看護の対象者を取り巻く現代社会の特徴、精神の健康レベルに応じた看護の特徴、治療的コミュニケーション技術と自己洞察のための方法について学修する。</p> <p>(12 北田志郎/3回) 精神の健康と危機に関して、①精神の構造と機能、②発達課題と精神の健康問題、③ライフサイクルにおける危機状況と介入について学修する。</p>	オムニバス方式
		<p>精神看護実践に必要な基礎的知識を修得する。主な精神疾患の症状や検査、治療に応じた看護援助、精神科リハビリテーション、地域ケアのあり方、精神科におけるリスクマネジメントの概要について理解し、社会生活において精神障がいがどのような影響を及ぼしているのかを考え、必要な看護支援について学ぶ。具体的には、精神看護の対象者の特徴の把握、精神科治療の概要と必要な看護援助、精神科における患者－看護師関係、精神科リハビリテーションの概念とソーシャルサポート、精神看護におけるリスクマネジメント、地域ケアのあり方と精神科訪問看護、看護を展開するための包括的アセスメントの視点と方法について、学修する。なお、助教は講義の補助を担当する。</p>	共同
		<p>「精神看護学概論」、「精神看護学方法論」で学んだ基礎的知識を基に、精神に障害をもつ人とその家族に対して看護を展開するために必要な基礎的看護技術を修得する。具体的には、治療的コミュニケーション技術、プロセスレコードの活用と自己理解、包括的アセスメントと看護過程の展開、精神科リハビリテーションの考えかたと課題、精神に障害をもつ人の社会復帰や自立に向けた援助、社会生活に必要なケア、社会資源について、講義と演習を通して学修する。なお、助教は講義の補助及び演習指導を担当する。</p>	共同 講義：7時間 演習：8時間

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅰ (理 論 と 方 法)	地域看護学概論	地域看護を推進する概念と地域住民は、生活の主体者であることを理解し、地域看護活動の対象である地域住民を「生活者」という視点で理解を深める。さらに、地域住民の健康・生活の状況を、地域特性や社会背景と関連づけて理解を深める。	共同
		地域健康支援論	地域で生活している人々とその生活をライフサイクル別にとらえ、健康課題を解決し、健康度を増進するために地域を基盤として行う支援および看護活動の目的、役割、実際を学修する。	共同
		在宅看護学概論	在宅で療養する人と、その家族を対象とした看護について学修する。具体的には、在宅看護の社会的背景を理解し、自宅療養者とその家族を支える看護の意義や位置づけ、目的、対象、活動の場と役割について学修する。また、在宅療養者の生活を支える社会的資源と、それらを有効に活用するための方法を理解することで、在宅看護の現状と課題、および今後の展望について考える。	
		在宅看護学方法論	在宅療養している人々と家族の生活の様子を把握し、在宅看護に必要なコミュニケーション、アセスメント、ケアプラン、ケアマネジメント、技術、制度や社会資源を学修し、在宅看護の展開方法を学修する。また、地域ケアシステムにおける関連機関・職種との連携のあり方と看護の役割を学び、在宅看護の具体的な方法を理解する。 本科目の科目責任者は王麗華である。 (オムニバス方式/全15回) (② 王 麗華 /5回) 訪問看護の制度及び訪問看護ステーションの管理・運営について学ぶ。在宅看護の技術、制度、ケアマネジメントの役割、終末期を迎える人への看護や在宅での医療機器の管理について学ぶ。 (⑥ 伊藤直子 /6回) 地域・在宅ケアにおける高齢者・家族への看護について学修する。さらに対象を理解し、看護を実践するためのコミュニケーション、アセスメント、関係職種との連携と看護の役割を学ぶ。 (① 村松由紀・② 王 麗華 /1回) (共同) 病院・施設と在宅間の継続看護および在宅ケアの連携のあり方(退院支援)について学ぶ (② 王 麗華・⑥ 伊藤直子・⑨ 高安 令子 /3回) (演習) 在宅看護学の事例を基に看護過程展開について学修する。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：24時間 演習：6時間
		在宅看護学演習	療養者が安心して在宅療養生活を継続するために必要な看護援助、および療養者と家族をサポートする在宅ケアシステムを学ぶ。具体的には、療養者の疾病・障がいに伴う本人や家族の生活への影響を理解し、在宅で療養生活を継続するために必要な看護および支援の方法を学ぶ。さらに、在宅におけるチームケアの実際を学び、対象が地域で生活し続けるための在宅看護のあり方とケアシステムや社会資源について考察する。 (② 王 麗華) 療養者が在宅療養生活を続けるためのケアシステムや社会資源活用の視点から演習を行う。 (⑥ 伊藤直子) 高齢者及び家族を中心とした在宅療養者の看護援助の視点から演習を行う。 (⑨ 高安令子) 在宅療養者及び家族、地域の健康の維持・疾病予防も含めた健康支援の視点から演習を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の 実践Ⅰ (理論と方法)	地域包括ケア概論 地域包括ケアシステム概念や諸理論を学び、日本の人口構造の変化、都市部の急速な高齢化等、ケアシステムが必要となるその背景を理解する。また、地域包括ケアシステムの4つの構成要素と、その担い手である自助・互助・共助・公助の果たす役割を学修する。さらに、地域包括ケアシステムの中で、看護職に求められる能力の1つとして、看護の対象である生活者が居住する地域特性を把握し、ケアを展開できるスキルが求められることから、本科目においては、地域特性と看護の役割について、取組み事例を紹介しながら分かりやすく学修し、地域で療養するあらゆる年齢の生活者の存在とその多様なニーズおよび看護の必要性を理解する。 本科目の科目責任者は王麗華である。 (オムニバス方式/全8回) (② 王麗華/3回) 地域包括ケアシステム概念や諸理論を学ぶ。また、地域で療養するあらゆる年齢の生活者の存在とその多様なニーズおよび看護の必要性について理解する。 (⑩ 福島道子/3回) 地域包括ケアシステムの4つの構成要素と、その担い手である自助・互助・共助・公助の果たす役割及び地域特性と看護の役割を学修する。 (1 杉森裕樹/1回) 日本の人口構造の変化、都市部の急速な高齢化等、ケアシステムが必要となるその背景を理解する (① 村松由紀/1回) 地域包括ケアシステムと看護の機能を学修する。	オムニバス方式
		地域包括ケア方法論 「地域包括ケア概論」で学修した内容を発展させ、各領域の看護学概論で学んだ知識を統合して、社会的状況から卒業後の保健医療福祉のイメージを具体的に示す。そのために、地域包括ケアにかかわる専門職(医師、訪問看護師、産業看護師、保健師、養護教諭、在宅ケアマネージャー、介護士、栄養士、臨床検査技師等)や社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治会、町内会等との連携を具体的に学ぶ。地域包括ケアシステムの開発にかかわる既存の概念や理論を基に実践事例や看護研究論文を活用した討議から、地域を単位とした包括ケアシステム構築に関わる活動の実践を学び、地域包括ケアにおける看護の役割、独自の機能を探求する。本科目の科目責任者は王麗華である。 (オムニバス方式/全15回) (① 村松由紀、② 王麗華/2回) (共同) 地域包括ケアシステム概念や諸理論の学修を振り返り、その社会的背景に関する理解を深める。 (1 杉森裕樹/1回) 地域ケアシステムに関わる関係法規と社会資源について学修する。 (② 王麗華/1回) 地域包括ケアシステムにおける関連職種及び他職種との協働について事例をもとに学修する。 (① 村松由紀/1回) 地域包括ケアシステムにおける対象者のニーズと「住まい」「生活支援」「医療」「介護」のあり方について学修する。 (⑩ 福島道子/2回) 地域ケア体制づくりについて、他職種や関連機関との連携・調整方法を学修する。 (1 杉森裕樹、① 村松由紀、② 王麗華、⑥ 伊藤直子、⑩ 福島道子/8回) (共同) 地域包括ケアに関する実践事例をとりあげてグループ単位で検討を行い、地域包括ケアにおける活動の実践と看護の役割、関連職種との連携方法を探求する。	オムニバス方式・共同(一部) 講義：14時間 演習：16時間
		地域包括ケア演習 これまでに学修した看護の知識を統合して対応する仮定の居住地域と住民を教材化し、地域包括ケアの模擬事例により、情報収集と「自助」「互助」「共助」「公助」の視点から個人や地域のニーズと必要な社会資源や課題などについて学修する。模擬ケア会議を開催し、看護の専門的視点をふまえた対象のニーズ分析、社会資源の把握、解決方法の検討や課題の抽出などを学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅱ (臨 地 実 習)	成人看護学実習Ⅰ(急性期)	急激な健康破綻と回復過程にある(周手術期)患者・家族の特徴を理解し、心身の回復と生活の再構築を目指した看護を実践できる基礎的能力を修得する。この際、多職種によるチームアプローチができる基礎的能力を養うとともに倫理的態度を身につける。	
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	慢性的な健康のゆらぎをたどり(終末期含む)、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている成人・家族の特徴を理解し、その患者にとって最適な健康状態になることを目指した看護を実践できる基礎的能力を修得する。この際、多職種によるチームアプローチおよび専門職としての援助的関係を築くための基礎的能力を修得する。また、実習を通して自らの看護観を形成する。	
		老年看護学実習Ⅰ	地域で生活する様々な健康レベルの高齢者とふれあい、介護予防・生きがい支援および住み慣れた地域での生活を継続するための支援方法やシステムを学修する。また、高齢者とのふれあいを通して、高齢者の特徴、高齢者を取り巻く家族や地域、高齢者のもてる力、生きた時代背景、地域での役割などを考察する。さらに実習の体験を通して、地域で生活する高齢者を取り巻く現状の課題や支援のあり方を考察する。	
		老年看護学実習Ⅱ	グループホームや介護保険施設で生活する高齢者を対象とし、加齢変化、健康障害や治療が生活におよぼす影響をアセスメントし、対象に必要な日常生活援助を実践する。それらを通して高齢者のより良い生活を支援するための看護実践能力を修得する。また、施設での多職種連携やその中での看護の役割を学び在宅復帰やエンドオブライフの支援のあり方について考察する。さらに、認知症高齢者とのコミュニケーションや援助を通して、認知症高齢者の看護について学修する。	
		小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護方法論、疾病治療学で学んだ小児の知識を基盤にして、実際の子どもと接しながら小児の成長・発達の特徴について理解する。具体的には、保育園実習において、健康な子どもの成長・発達を理解する。また、病院やその他の施設においては、疾病や障害をもつ子どもや家族への理解を深め、必要な援助について考え実践する。そして、子どもと家族の支援のための知識、技術、態度について学修する。	共同
		母性看護学実習	『ウィメンズヘルス(女性の生涯をとおした健康)』の視点から、母性看護における対象の理解と健康な生活へ導くための援助に必要な知識および技術を修得するための臨地実習とする。そこで『リプロダクティブヘルス/ライツ』の観点から、女性のライフサイクル上に特有な健康課題をもつ対象において男女共同参画推進事業センターにて開催される事業に参加し看護に必要なエンパワーメント、コンサルテーション、ヘルスケアサービスなどの実際を経験しウィメンズヘルスを支えるための知識・技術・態度を培う。マタニティサイクル期においては、病院の周産期病棟において母子を受け持ちウェルネスの視点で看護を展開し、さらに対象が持つセルフケア能力を見極め、健康な状態へ導くための看護援助を実施する。その経験をとおして母性看護に関わる医療職として必要な倫理観・人間性を養う。	共同

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 実 践 Ⅱ (臨 地 実 習)	精神看護学実習	社会復帰施設やデイケア、グループホーム、訪問看護などの社会資源を活用しながら、地域で生活している精神障がい者とその家族に対して、その人らしく生きることができるようQOLの向上をめざし、エビデンスに基づいた看護を実践する。そして、援助過程の再構成により自己理解・自己洞察力を深め、患者－看護師関係の構築のあり方について学ぶ。また、地域ケアにおける医療チームの一員として、多職種の機能役割と相互連携および社会資源の活用について理解する。	共同
		在宅看護学実習		
		地域包括ケア実習	地域の健康課題を把握し、実習施設（市町村の保健センター等）で実施している保健事業や地域看護活動との関連について考察し、地域住民の健康支援・増進についての具体的方法を学ぶ。また、市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセスと、看護師としての関連職種、関係者との連携や看護活動について学ぶ。具体的には、地域包括ケアの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を理解し、医療を巡る社会経済的動向と対象者の日常生活圏域におけるニーズの把握、課題解決に向けた地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力の実際を学修する。	
		統合実習	これまで学修した看護の専門的知識・技術および看護専門職としての態度を統合させ、看護学の学修の集大成として、より難易度が高いあるいは、実践的な内容を学ぶ。基礎、成人、老年、公衆衛生・在宅、母性、小児、精神の各看護学領域から学生が選択した領域において、自ら主体的に学修課題を設定し、看護実践能力を養う。	
	看 護 の 実 践 Ⅲ (看 護 の 発 展)	クリティカルケア論	<p>生命の危機状態にある患者・家族に対し、生命の維持・回復、苦痛の緩和、セルフケア能力の回復／再獲得といったQOLの向上を目的とした看護援助や家族への支援について修得する。クリティカルケアの場は救命救急・集中治療室だけでなく、一般病棟・外来から在宅まで及び、あらゆる発達段階の人々を対象としている。さらに、さまざまな倫理的課題も山積していることから、全人的で幅広い視野にてクリティカルケア看護を考察できる能力を身につける。</p> <p>本科目の科目責任者は、本山（堀内）仁美である。 (オムニバス方式／全8回)</p> <p>(13 本山（堀内）仁美/5回) 生命危機状態にある患者・家族の身体的・心理的・社会的な特徴を説明する。それをふまえて人工呼吸器や人工心肺など生命維持装置が必要な患者の看護や回復促進、苦痛の緩和などQOLの向上を目的とした看護の方法を学修する。さらにクリティカルケアにおける倫理的課題に関して考察する。</p> <p>(18 荒井洋子/1回) 生命危機状態にある妊婦・褥婦の特徴および必要となる看護について具体的方法を学ぶ。</p> <p>(③ 長田泉/1回) 小児集中治療室にいる患児やその家族の特徴および必要となる看護について具体的方法を学ぶ。</p> <p>(② 王 麗華/1回) 在宅療養中の対象が急激に状態悪化した時の看護や急変時への対応の準備について具体的方法を学ぶ。</p>	オムニバス方式
		地域リハビリテーション看護概論	あらゆる発達レベル・健康レベルの看護の対象者とその家族が、住み慣れた場所で地域住民と共に安全でQOL（生活の質）を重視した生活を送れるようにするためには、医療・保健・福祉及びその人の生活に係る全ての人々と機関・組織がどのようなアプローチすればよいのかをリハビリテーションの立場から学修する。	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の実践Ⅲ（看護の発展）	<p>一般病棟や外来、在宅などで、がんの診断時から行われる苦痛の緩和に関する基本的緩和ケア（非がん患者にも適応できる）について学ぶ。 具体的には、緩和ケアの歴史と現状、患者および家族のトータルペインの特徴、身体症状とその治療・ケア（疼痛緩和、呼吸困難の緩和、消化器症状の緩和、化学放射線療法の副作用による苦痛の緩和）、精神症状とその治療・ケア（抑うつ、せん妄の緩和ケア）、社会的ケア（ソーシャルサポート、社会資源等）、意思決定とコミュニケーション、悲嘆と遺族ケア、ターミナル期のケアの特徴および緩和ケアに必要な看護者の態度について学ぶ。</p> <p>本科目の科目責任者は糸井裕子である。</p> <p>（オムニバス方式/全8回）</p> <p>（4 糸井裕子/3回） 緩和ケアの歴史及び身体症状とその治療・ケアについて学ぶ、また、ソーシャルサポートや社会資源等の社会的ケア、家族ケア等について学ぶ。</p> <p>（16 鈴木明美/3回） 身体症状とその治療・ケアとして、疼痛緩和等と化学放射線療法の副作用による苦痛の緩和、精神症状とその治療・ケアについて学ぶ。</p> <p>（③ 長田泉/1回） 小児における緩和ケアの特徴</p> <p>（12 北田志郎/1回） 在宅における緩和ケアの特徴</p>	オムニバス方式
		<p>がんの診断時から行われる苦痛の緩和に関する基本的緩和ケアについて学ぶ。具体的には、がんサバイバーとサバイバーシップの概念、がんサバイバーとサバイバーシップのプロセス（診断・治療期、再発期、終末期）におけるがん患者が抱える社会生活の課題（長期的合併症や再発への恐怖、周囲との人間関係、ライフスタイル、介護、就学・就労の問題、経済的問題、がんへの偏見、がんリハビリテーション、生きる意味を含めた実存的問題）について学ぶ。</p> <p>本科目の科目責任者は糸井裕子である。</p> <p>（オムニバス方式/全8回）</p> <p>（4 糸井裕子/4回） がんサバイバーとサバイバーシップの概念、がんサバイバーとサバイバーシップのプロセス（診断・治療期、再発期、終末期）、がん患者が抱える社会生活における課題（診断・治療期）、がん患者が抱える社会生活における課題（再発期、終末期）、がん患者の意思決定とコミュニケーション、がん患者の悲嘆と遺族ケア、がん患者のターミナル期のケアの特徴</p> <p>（13 本山（堀内）仁美/1回） がん患者の身体症状とその治療・ケア（疼痛緩和、呼吸困難の緩和、消化器症状の緩和）</p> <p>（16 鈴木明美/3回） がん患者の身体症状とその治療・ケア（化学放射線療法の副作用による苦痛の緩和）、がん患者の精神症状とその治療・ケア（抑うつ、せん妄の緩和ケア）、がん患者の社会的ケア（ソーシャルサポート、社会資源等）</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ・健康科学部看護学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 統 合	看護実践能力強化演習	卒業年次に看護基礎教育の集大成として、具体的な事例と患者役を演じる教員やシミュレーターを教材に、実際の看護場面を想定した複数患者への看護や多重課題への看護について、状況のアセスメントから、優先順位を判断し、計画した看護ケアについて、準備、実施、観察、後片付けの一連の行動を実施することができる看護実践能力の強化を行う。	共同
		東洋文化と看護	グローバル化の中、看護ケアの場においても異なる文化的背景を持つ人々へのケアの提供が求められる。特に、東洋の文化に焦点をあて、そのヘルスケア理論および実践を中心に、東洋医学の基本的な考え方を学修する。	共同
		看護研究Ⅰ	総合基礎科目、専門基礎科目、専門科目で学修した内容の統合として、看護研究の基礎となる研究意義、研究方法論、研究倫理を学修する内容とする。	共同
		看護研究Ⅱ	「看護研究Ⅰ」で修得した知識を基に、3年後期に履修する各専門領域別の看護学臨地実習の中でも特に、統合実習を通して見えてきた看護学の関心や疑問点について、論理的、批判的、創造的に発展させた文献レビューから研究計画書作成を行う。	共同
		家族看護学	近代における家族を理解し、家族の役割ならびに機能、関係性を学修し、その上で現代の家族が直面する諸問題とその困難の背景や要因が家族の健康にどう影響するのか探索する。家族をエンパワーするために必要な看護の役割と支援方法を修得する。 本科目の科目責任者は、長田泉である。 (オムニバス方式/全8回) (③ 長田泉/3回) 家族及び家族看護の必要性を理解し、小児看護学領域における家族看護について具体的事例から学ぶ。 (④ 草刈由美子/3回) 家族看護の実践について患者家族と在宅ケア、介護家族支援へのアプローチを具体的事例から学ぶ。 (⑩ 福島道子/2回) 家族看護学の諸理論、家族ケアのアセスメントについて学ぶ。	
		看護管理学概論	「看護管理」は管理者だけのものではなく、すべての看護職者が組織の一員として学ぶべきものである。組織の一員としてもマクロの視点、一人の看護職者としてのミクロの視点から看護管理と看護師の役割について学ぶ。看護を「しくみ」としてとらえ、物的資源、人的資源、財源資源を有効利用し、「しくみ」の問題解決方法を学ぶ。また、看護と看護の歴史の変遷を通して看護と看護師のあり方と課題について理解する。	
		国際看護学	本学の教育理念および建学の精神に基づき、文化人類学を基盤に多文化への理解適応するための知識・技術を学修し、世界の人々の健康と看護職をグローバルかつ文化的な視点から考察する。また、日本の医療者や福祉関係者の国際医療活動についての理解を深める内容とする。	共同
		医療安全論	医療において、損失を生む原因を回避する、あるいは受ける損失を最大限にとどめるリスクマネジメントが極めて重要である。医療安全のための看護マネジメントの視点から、ヒューマンエラーの種類と不安全行動の防止対策や具体的なエラーの防止対策を理解し、個人、多職種およびチーム、組織として医療安全に取り組む意義と体制を理解する。また感染に対する防御の必要性とその具体的な対策等の感染管理について学修する。	
		災害看護学	災害看護では、災害の種類や災害が人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルと活動現場別に、被災者の健康や生活のニーズに対して看護が果たす役割について学び、災害時に必要な知識・技術・態度を学修する。また、災害活動の法的根拠や、さまざまな職種と協働し災害時の看護活動を円滑に行うための災害医療の基礎知識を学修する	共同